



日本サーバス会報

2017年5月30日発行

日本サーバス会長 緒方智子

春先のハクモクレンほどの豪華さはありませんが、それでも、クマノミズキ、ヤマボウシ、アブラギリ、ウノハナ、そしてドクダミソウ・・・白い花々がそれぞれの個性をアピールしています。ショウブやアジサイも咲き始めました。北海道ではライラックが盛りとか。みなさまの御地では今頃はどのような花々が人々の心を捉えていますでしょうか。

さて、日本サーバスは3月に仙台で国内会議を行いました。時代の変化に伴い、新しい課題も提起されて、それぞれに課題への挑戦が行われているところです。

本会報(2017年5月号)ではそれらを取りあげみなさまにご紹介していきたいと思えます。掲載している内容は以下の通りです。ご一読くださいませ。

- |   |  |                      |
|---|--|----------------------|
| 1 | 国内会議   | —概要の報告—              |
| 2 | サーバスオンライン (Servas On Line, SOL) の取り組み          |                      |
| 3 | 若者にサーバスを!                                      | —関東支部の取り組み—          |
| 4 | Servas Youth Language Experience (SYLE) 受け入れ報告 |                      |
| 5 | 折り鶴に託された願いを世界へ                                 | —「折り鶴 GIFT」プロジェクト報告— |
| 6 | 日本サーバスの活動                                      |                      |
| 7 | 編集後記に替えて                                       |                      |

## 1 国内会議 — 概要の報告 —

2017年度日本サーバス国内会議を以下の要領で行いました。会議内容の詳細は日本サーバス Web 上に公表しておりますので、そちらにもお目通しいただけたら幸いです。

緒方 智子

期日：2017年3月18日(土)～19日(日)

場所：仙台市青葉区旭ヶ丘、仙台市青少年文化センター

出席者：名誉会長、会長、副会長兼北海道支部長、ピースセクレタリー、本部会計、本部会計監査、ホストリストコーディネーター、IT委員長

東北支部長、関東支部長、東海・北陸支部長、近畿支部長、中国・四国支部長、九州支部長

会員(東北)、会員(東北) 会員(関東)、会員(東海・北陸)、会員(東海・北陸)、会員(近畿)、見学学生2名(関東)の各氏

議題は2016年度活動報告、決算報告、ならびに2017年度活動計画と予算の審議および、それらに関わる案件が中心です。会議で出された特徴的なものをいくつか抜き出してみます。

## 1. NPO 法人化をめぐる問題

この件ではサーバスの財政問題、組織問題と関わっていろいろな意見交換が行なわれました。引き続き、役員メール等を通じてみなさんのご意見を聴取・集約していきたいと思っています。

## 2. 会計をめぐる問題

この件では提案者側の不手際がありました。そのことを支部会報で追求された支部もありますので、もしかしたら本部に対する不信感を抱かれた会員の方もいるかもしれません。ここで、いきさつを少し説明させてください。(具体的な数字等は日本サーバスの Web 上に、国内会議の議案書、議事録を公表していますのでそちらをご覧ください。)

日本サーバスは会員のみなさまからサーバス会費として、年間 3,000 円をいただき、その内、支部費として 2,150 円、本部費としてホストリスト代を含めて 850 円を分担していただいていたいました。(2016 年まで)

本部では、それらを支部からの上納分として一括として受け取り、本部会計として、ホストリスト印刷と発送、国際サーバスへの分担金上納、ホームページ維持管理費、事務費、通信費、国内会議開催費およびその会議への出席を要請されている方への旅費の一部(1/4)を支払っていました。

旅費に関して言えば、その支給は本部からは 1/4 額のみで、残り 3/4 は各支部でご負担いただく方式でした。各支部長は支部代表者として派遣されている訳ですから、その負担に関しては納得しても、本部役員分を支部が負担しなければならないことへの疑問があります。また、財政規模が小さい支部や本部役員を何人も出している支部への負担も大きく、フェアな方式とは言えません。それらが昨年(2016 年度)の札幌国内会議で出され、是正の方向性を出していくことが合意されていました。そのため、札幌会議後、財政部プロジェクトチームをつくり、いろいろなケースをシミュレーションしていただきました。

当然のことながら、旅費支給是正の方向を出すためには本部費が増えないことにはどうしようもありません。幸いに、印刷版ホストリスト廃止で生じてくる余剰金を使えば何とかかなりそうだ、という見通しがでましたので、国内会議への本部役員の旅費負担を支部に委ねず、本部会計で全額を支出する予算案を作成・提案しました。これが大きなミスでした。

各支部からは、分担金 400 円プラス印刷版ホストリスト負担金 450 円、計 850

円が上納されますので、提案の筋道としては「印刷版廃止に伴う一人 450 円の負担金について」を一番に審議していただき、その後、新しい予算案の審議に入るべきでした。しかし、そのステップをスキップしていました。このようなミスが生じた背景には、本部会計は上納されてきた金額を「分担金」と「負担金」とに区別せずに合計金額 850 円を一括して本部会計費として扱い、費目も活動費の中に入れて支出していく方式でした、さらに昨年からのいきさつもありました。そういうことで必要な 1 ステップ過程を経ずに提案したために、昨年の札幌会議を欠席された方には唐突な感じを与えてしまいました。

審議途中、そのことの不手際に気づきましたので、提案を取り下げ、従来通りの旅費補助システム、つまり、本部から 1/4、残り 3/4 は支部に委ねる方式に変えさせていただきました。該当支部にはご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願い致します。

尚、2017 年度は各支部一人当たり、450 円の印刷版ホストリスト負担金の上納がありませんので、その分を支部活動費として、有効にお使いいただければと思います。

本部役員の旅費については引き続き各支部にご負担をおかけいたしますが、よろしくお願い致します。この件に関しては、各支部で 1 年間お考え頂き、必要とあれば、旅費規程の再提案を考えていきたいと思っております。

他に、会計問題では、支部独自の財政ではなく、日本サーバスとして一本化すべきではないか、という意見も出されておりました。これも今後の検討課題でしょう。役員メーリングリスト（役員 ML）でご意見を聴取していきたいと思っております。

### 3. 「日本サーバス役員メーリングリスト」（役員 ML）を利用した議決

時代が急速に変わって行く感のある世の中であって、サーバスもいろいろな面で課題を抱えています。それらを適宜解決していくためには、メーリングリスト（ML）の利用が欠かせません。そこで会則に指定する協議事項（役員人事、収支決算、予算、規則の重要項目）以外の案件について、役員 ML で提案し、意見交換をして、合意を得ながら執行していくための議決方式も採用していくことが決まりました。

### 4. 日本サーバス IT 委員の選出

IT 委員長は N さん（本部役員）ですが、日本サーバス Web サイトの維持管理のための IT 担当委員として次の方々が選出されました。関東支部の Y さん、東海・北陸支部の K さん、近畿支部の S さんです。よろしくお願い致します。

### 5. 本部役員の任期の確認と選任

役員全員の任期を 2016 年 12 月までと確認され、全役員が任期終了であることが確認されました。今年で引かせていただきたいと退任の意向をお漏らしの方も

あったのですが、サーバス活動のオンライン化をはじめ多くの課題を抱えている現在の状況を踏まえ、役員全員の2017年1月～2018年12月までの再任を決定しました。同時にユース部会長代行がユース部会長に選任されました。

## 6. 2018年度の国内会議

来年度の国内会議は関東支部にお願いすることになりました。

## ② サーバスオンライン (Servas On Line, SOL) の取り組み

コンピュータに強い人にとっては何でもないことかもしれませんが、特別にそれが無くても生きてきた人間にとって、インターネットを利用した機器の操作は非常に高いハードルです。会員の1/4を70代が占めている日本サーバスにとって、ホストリストが印刷版から電子版への変更やインターネットを活用したオンライン化は日本サーバスにとって一つの試練の時かもしれません。

ここでいうオンライン化とは Servas On Line System (SOL と呼んでいます) を通じてサーバス活動を行うということです。国際サーバス全ての加盟国がこのシステムに入ることとなります。これはサーバスの活動に次のような変化をもたらします。

- ①今までは自分の情報の修正、追加、削除などは支部長を通して本部のIT部門でしていただいていたのですが、SOLでは各個人にパスワードが与えられ、自分でそれができるようになります。
- ②また旅行をする場合もシステム上でホストを探す事が出来き、相手に直接メールで連絡できますので便利になります。
- ③パスワードで保護されていますので印刷版ホストリストや電子版ホストリストよりセキュリティは高くなります。

担当者の方は日本での Servas On Line 化をスムーズに進めるために、たいへんな苦勞をしてくださっていますが、何回聞いてもわからない、と言われる方も多いかと思えます。でも、ご心配は要りません。不安に思われる方は気軽に支部役員にご相談ください。メールアドレスをお持ちで無い方も支援可能です。

SOLに移行したら以下ようになります。

- ①SOL本部から個人宛にパスワードが配信されてきますので、それを使ってSOLのシステムに入り、自分のプロフィールをチェックし、自分でデータの更新追記を行うことができます。
- ②LOIについては、今年度末までは紙のスタンプを貼付するようになっていますが、その後は紙版ではなく、e-stampになります。LOIの料金を支部長または支部内の担当者に支払うところや面談等は従来と変わりません。

詳しい情報は担当者から日本サーバス役員メールを通してお知らせがあります。

SOL利用マニュアルは英語版がありますが、日本サーバスとして、日本語版の発行も予定しています。

各支部では例会や小さなグループで、SOLに関する情報交換会や学習会等のミーティングを企画していただくこともお考えいただけたら幸いです。

### ③ プロジェクト「若者にサーバスを！」 — 関東支部の取り組み —

関東支部 M. N.

今から8年前の2009年の国内会議で私は「人は必ず死にますので、次代を担う若者を会員にリクルートしていかないと日本サーバスは消滅してしまいます」と言ってしまった。新プロジェクト「若者へサーバスを」の承認と協力を願うための発言だったが、会場では笑い声が上がった。今の若者を相手にするのは無理、反対という意見まで出るありさま。思えば、まだ「少子高齢化」のリスクを社会一般が実感していない時代であった。

サーバス会員には教員が多いのに、それが若年層の会員を増やすことにつながっていない。堂々と大学に公認をもらったうえでサーバスの会員募集活動をする、それには大学の国際センターにサーバスの説明をし、その賛同と協力を得てサーバス学生を増やすのが王道であろう。とにかく国内会議では「関東支部でまずやってください。必要な支援はします」という結論は引き出せた。

慶應関係者が何人かいたため、活動対象第一号は慶應とした。面談会でも大学側にはサーバスのような純粹奉仕精神の非営利団体の存在は「にわかには信じがたい」とまで言われた。それでも、日常レベルでの異文化交流で会員が人格の幅を広げてゆくことが平和の構築になると信じる稀有な人たちのボランティア団体と認識してもらうことができた。

次は広報ツールである。日本サーバスのHP（当時）は会員対象の印象が強い、全くサーバスを知らない人を対象としたサイトが必要だと、慶應側からアドバイスがあり、それが2010年、QAコーナーなどを入れた新しい関東支部HPの立ち上げにつながった。同年できたポスターは2016年には英語版のポスターへと発展した。

とはいえ、実行速度が遅いのがボランティア団体の弱み。広報ツール作成でモタモタしている間に大学側の組織変更で、サーバスの公認は慶應義塾からでなく、慶應大学理工学部からとなった。

広報ツールがあると、サーバスへの信頼感が違ってくる。その後、東大、東京外国語大学、東京経済大学、桜美林大学、日大、南山大学、その他でのポスター掲示が進んでいる。

とはいえ、我らの広報ツールでどれだけの若者がサーバスを知り、会員が増えたのかというと、答えは「ぼちぼちです」。ツールは道具、道具はそれを使う人間に愛情や情熱があって初めて役立つもの。どんな立派なツールがあっても、対面での説明以上のリクルート活動は存在しない。

今年、言語習得を目的とする国際サーバスのSYLE(Servas Youth Language Experience)プログラムが日本でも動きだし、「若者にサーバスを！」は新しい磁力を得た。3月の仙台国内会議に私の教え子男女学生が出席し、直後、彼らはサーバスで来訪した英国人夫妻を鎌倉に案内するDay hostで国際交流初体験もした。

私自身、若き日にサーバスを知り、理想を掲げた地球規模の組織も人間への信頼感が基にあるからだ実感し、その感動ゆえに今日まで会員を続けている。サーバスが私に世界の多彩さと人間の素晴らしさを教えてくれたように、サーバス体験が多くの若者の豊かな生き方へとつながり、それが平和の構築に役立つことを切に願っている。

#### 4 Servas Youth Language Experience (SYLE) 受け入れ報告

「前号で SYLE って何ですか？」を特集しましたが、今回はその結果報告です。SYLE に応募してきたテスさんは1ヶ月間、6人のホスト宅に滞在し、SYLE を無事終了。その後4日間、2軒のサーバスステイを行って沖縄そしてタイへ。小さいときからサーバスファミリーに育ち、自然にサーバスに馴染んできていたテスさんでしたので、ホストも本人もスムーズでした。今回はまさに「案ずるより産むが易し」。よい「試験的受け入れ」ができたと思っています。受け入れたホスト2軒の感想と途中で書いてもらったテスさんの感想を紹介します。 (0記)

<HOST 感想1>

(九州支部 K. N.)

日本語の勉強に意欲的なTさんには感心させられることばかりでした。漢字やカタカナをまじえ、言葉を選んで書かれた日記にも「すごい」と感心させられる箇所がいくつもありました。難しい助詞の使い方の説明もしっかり聞かれ、こちらの勉強にもなりました。何より私が感心させられたのは、コミュニケーション能力でした。出会った人たちと堂々と自分の考えを述べ、引き込まれる会話力で誰とでも打ち解けていく様子が至るところで見かけられました。私にとっても世界が広がったような六日間でした。受け入れる前は心配や不安が大きかったですが、貴重な楽しい体験ができました。ありがとうございました。

<HOST 感想2>

(九州支部 T. Y.)

SYLE が始まって3週間以上たちました。毎朝 Tess さんが前夜日本語で書いた日記を見せてくれてホストがチェックする事になっています。その日記を見るのが楽しみでした。日に日に日本語が上達しているのが分かり、表現力も豊かになっていると感じました。4日間のステイ中、遠出はしませんでした。家から5km位の近場で、瀬板の森公園での散歩、頓田貯水池の周りをレンタサイクルで1周、水巻町立図書館では Tess さん1人で2時間ぐらい過ごし、枕草子を漫画で読んだそうです。日本の漫画はほとんど主語がなく理解するのは難しいと言っていました。途中で給油(セルフ)をした時、Tess さんのポートランドでは今はセルフのガソリンスタンドは禁止になっているそうです。雇用を奪う事になるからです。なるほどと思いました。楽しかったのは私の友達が簡単にできるブローチの作り方を教えに来てくれた事です。椎の実の頭の部分、布、綿を使って世界に一つだけのブローチが出来上がりました。我が家でお風呂に入るトラベラーはほとんどいませんでしたが、Tess さんはお風呂が大好きで毎回「気持ちよかった、幸せ」と言っていました。21日最後のステイ先である佐賀のN先生宅に向かう日には、近くの家や大きな

な川（遠賀川）までドライブして、ランチの後、折尾駅に見送りました。  
SYLE は T さんにとっても私たちにとってもとてもいい経験になりました。

<T さんから>

日本のサーバスのみなさん、

はじめまして。私の名前は T・H です。アメリカのオレゴン州から日本語を勉強するために、今九州を回っています。4 年前、同志社大学で留学したけど、その時寮に暮らしていたので、日本語を話せるチャンスが少なかったです。

それだから、今回私は SYLE に参加することを決めました。日本の日常生活を経験しながら、日本語はもちろん、日本の文化や歴史も学んでいます。サーバスのおかげでこの機会があって、本当にかんしゃしています。

(T H そのままの原稿です)

## ⑤ 折り鶴に託された思いを世界へ

—「折り鶴 GIFT」プロジェクトの報告—

中国・四国支部長

日本サーバス中国・四国支部/九州支部の共同プロジェクトとして「折り鶴 GIFT」をはじめました。内容はヒロシマ・ナガサキ来訪の記念として、「原爆の子の像」に奉納された折り鶴をサーバス・トラベラーとその友人たちにお分けする取り組みです。5 月初めには全ての手続きが済み、広島市（広島平和文化センター）から折り鶴（2 束）が配布されました。この「折り鶴」は、全国各地の学童らが世界平和を願って折り続け「原爆の子の像」に納められたものです。広島・長崎を訪問されたサーバス・トラベラーとその友人たちにこのギフトの趣旨を添え、「原爆の子の像」に捧げられた折り鶴を手渡していきます。

「原爆の子の像」とは広島市 平和記念公園の一角にある像で、2 歳の時に被爆した佐々木禎子さんが 10 年後に白血病で亡くなったことをきっかけに、同級生たちが「原爆で亡くなった全ての子供達のために慰霊碑をつくろう」と呼びかけ、全国の 3,200 余りの学校や世界 9 カ国からの寄付などにより、1958 年 5 月 5 日に完成したものです。像の高さは 9 メートルでその頂上には折り鶴を捧げ持つ少女のブロンズ像が立ち、平和な未来への夢を託しています。この像の下に置かれた石碑には「これは僕らの叫びです。これは私たちの祈りです。世界の平和を築くための」という碑文が刻まれています。

追記

O. T.

佐々木禎子さんをモチーフにしたストーリーは中学、高校での英語教材としてしばしば取り上げられています。資料として中学3年生の現行英語教科書に掲載されている内容を教科書会社の許可を得て紹介致します。

(三省堂 New Crown 3)

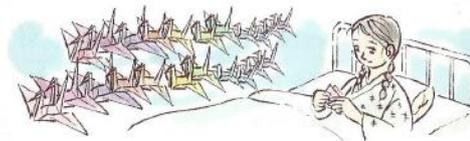
佐々木禎子さんのことを知っていますか。彼女がどんな人生を送ったのかに注意しながら読んでみよう。

## The Story of Sadako

It began with a flash. On August 6, 1945, an atomic bomb was dropped over Hiroshima. The bomb destroyed the city. At least 130,000 people died by the end of the year. Two-year-old Sasaki Sadako survived.

In elementary school, Sadako could run fast. She especially liked her PE class. She wanted to be a PE teacher when she grew up. In the sixth grade, she was selected as a member of the relay team for the school's sports day. It made her very happy.

About a month after the sports day, Sadako suddenly became sick. The doctors thought that her sickness came from the bomb. "It will be difficult for her to live for more than one year," a doctor said to Sadako's parents.



In the hospital, Sadako received some paper cranes. She remembered the custom, "If you make a thousand cranes, you will get well." She made many cranes. She made a wish on them for good health. She didn't lose her hope, but she never left the hospital. Her life ended when she was only twelve.

After Sadako died, it was difficult for her friends to accept her death. They built a statue of her. It now stands in Hiroshima Peace Memorial Park. Every year many people send paper cranes to Hiroshima from around the world. The cranes are for Sadako and for peace.

トラベラーとのConversation pieceとしてもご利用頂き、禎子さんの折り鶴を再び世界に羽ばたかせてください。両支部以外の支部でこのプロジェクトに賛同し、トラベラーに折り鶴ギフトをお渡し頂ける会員の方または支部はメールでご連絡ください。必要セット数を中国・四国支部作成のリーフレット付きでお送り致します。

## ⑥ 日本サーバスの活動

### 1. サーバス紹介リーフレットの活用

ホストリストコーディネーター作成のリーフレットをインターネットサイトで注文し、支部内での活用が進んでいます。ぜひ、貴支部でもご検討いただき、口コミでサーバスの宣伝をしてください。新しい方にお仲間に加わっていただき、交流の楽しさを共に味わっていきましょう。

### 2. トラベラーの受け入れ報告

トラベラー受け入れ報告がサーバスWebサイトから行う事が出来るようになります。その結果は、Webページに自動的に掲載され、サーバスの受け入れ活動の様子が分かります。準備が整ったらお知らせ致します。このことに備えて、訪問者があった場合は、以下の事をメモしておいてください。忘れないうちに支部長さんのところにメールしておかれてもいいと思います。(支部長さん、よろしくお願ひします)

①ホスト県名 ②ホスト名 ③トラベラー国名 ④トラベラー名 ⑤訪問者人数 ⑥受け入れ期日 ⑦一言感想等 をお知らせください。サーバスの基本をなす貴重なデータです。よろしくお願ひします。

### 3. 課題別プロジェクト

今年度も昨年度に引き続き、プロジェクトを中心に活動を展開していただきたいと思います。2017年度の国内会議決定事項推進のために、あらたなプロジェクトも立ち上げる予定です。次号で詳細をお出しします。

#### 4. 「折り鶴GIFT」プロジェクト

中国・四国支部の発案で九州支部との共同プロジェクト「折り鶴GIFT」プロジェクトがはじまりました。関心がある方はぜひ、訪問トラベラーにギフトを渡す取り組みに加わってください。

#### 5. 支部活動の充実を！

支部活動を活発化させ、サーバスに新しい風を吹かせるcreativeな活動を展開することで、会員も増えていきます。サーバスの会則に基づいた、支部独自の活動は大いに推進されるべきだと考えます。生き生きとした支部活動の報告・交流が来年の国内会議でできたらいいなーと思っています。

## 7 編集後記に替えて

仙台で行われた国内会議に2名の学生さんが会員と一緒に見学されました。懇親会にも参加していただき、若い方の参加で宴が盛り上がったのはいうまでもありません。後日、学生さんたちは別の会員が行うDay hostにも同行し、非常に勉強になった、と感想を漏らされていたとお聞きしました。英語の実践的な運用だけでなく、サーバストラベラーとの出会いによる「学び」やサーバスがめざそうとしているものを実感されたのでしょうか。

その学生さんたちを連れて、仙台会議に参加されたMさんの記事にはサーバス活動のヒントがたくさん提起されていると思います。感謝致します。

「無報酬」を基本にし、見返りを求めないサーバスの理念は、「ビジネス」・「損・得」・「計算」で動く現在の社会においては希少な存在かもしれません。即座に多くの人々の理解を得て、メンバーが増えていく状況にはなかなかなりにくいのも事実でしょう。それでも、サーバスは今まで多くの人を魅了してきました。「何がそうさせるのか」「させてきたのか」、ひとそれぞれにちがった答えが出てくるでしょう。長年サーバスに関わってこられた先輩方に少しずつ本会報で語っていただけたらと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

日本サーバス会長